

(写真・文 太田祥作)

ブッポウソウ

(学名 : *Eurystomus orientalis*)

【ブッポウソウ目ブッポウソウ科】



▲ 7月、町内で撮影



▲ 地方名「もんつきがらす」の由来となった翼の白斑。「もんつき」部分は逆光だと白く抜けて見えるが(上)、順光では水色だとわかる(下)

ブッポウソウは只見町に渡ってくる珍しい夏鳥です。体は光沢のある青緑色で、頭部は黒色、嘴と脚は赤色と、まさに極彩色をしています。

和名は漢字で「仏法僧」と表され、かつてこの鳥が「仏法僧」と鳴くと信じられていたことに由来します。ところが、実際に「仏法僧」と鳴くのはコノハズクというミミズクの一様で、ブッポウソウは「ゲツ、ゲツ」と濁った声で鳴きます。また、只見町の地方名ではこの鳥を「もんつきがらす」と呼んでいました。「もんつき」は、翼にある白斑を着物の「紋付」に例えたのだと考えられます。

ブッポウソウは山地森林性の鳥で、カナブンなど大型の飛翔性昆虫を餌とします。主に大木の樹洞に営巣しますが、自力では巣穴を掘れないので、キツツキの一種・オオアカゲラふるすの古巣をよく利用するようです。そのため、ブッポウソウの繁殖には、オオアカゲラや大型の昆虫が多い成熟した森林が必要だと言えるでしょう。

ブッポウソウは全国的にも珍しく、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I B類ぜつめつ きく (近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの) に選定されています。福島県では会津の山間部を中心に分布しますが、やはり少なく、繁殖状況はよくわかっていません。只見町の場合、昔は町内のあちこちに見られたようですが、近年では限られた地域でのみ見られます。2024年8月には幼鳥が確認されたことから、町内のどこかでひっそりと繁殖しているのかもしれませんが。

雪国・只見の本格的な春はもう少し先ですが、ブッポウソウの渡来まであと2ヶ月ほどです。町の森林の豊かさを示すこの鳥が、今年も渡ってきてくれることを祈ります。

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター(電話0241-72-8355)までお問い合わせください。

企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

会期：2024年11月9日(土)～2025年6月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー